容器の2030年ビジョン

2018年、ザ コカ・コーラ カンパニー（米国本社）は2030年までに、
世界で販売する製品の販売量に相当する缶・PET容器をすべて
回収・リサイクルする「World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）」の実現を
グローバル目標として掲げました。
これを受けて日本のコカ・コーラシステムは2018年1月、
「容器の2030年ビジョン」を設定。2019年7月にはこれを更新して、
従来の目標達成を前倒しする新たな環境目標を発表しました。

WWW 3本の柱と2030年までの目標設定

❶ 設計 Design

容器の原料や形状をサスティナブルなものにしていくこと
ボトルtoボトルの推進

ボトルtoボトル/サスティナブル素材

植物由来
PET樹脂
10%
BtoB
90%
「ボトルtoボトル」

100%
新規化石燃料ゼロへ
すべてのPETボトルを、
リサイクルPET樹脂または
植物由来PET樹脂に切替

PET樹脂の使用量

35%削減
製品1本当たりの
PET樹脂の使用量
（2004年比）

※「ボトル to ボトル」とは PET ボトルを回収し、PET ボトルとして再生すること。

❷ 回収 Collect

販売した量
回収した量

販売した自社製品と
同等量の容器を回収＆リサイクル

❸ パートナー Partner

政府、自治体、飲料業界、地域社会との協働を通じ、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築と維持

日本のプラスチック製品およびPETボトルの現状

プラスチック製品使用量におけるPETボトルの割合は6%

日常生活に欠かせない存在となったプラスチック製品は日本国内で年間992万tが使用されています。そして、国内におけるプラスチック製品のうち、使い捨てのレジ袋や容器が全体の35%（344.2万t）を占め、PETボトルの割合は全体の6%（62.6万t）です。

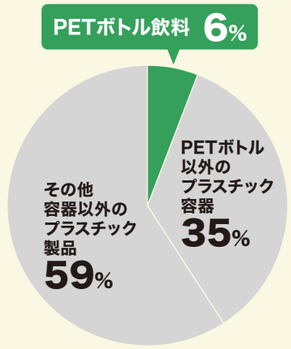
日本のPETボトル回収率は98%以上！

日本国内におけるPETボトルの回収率は、分別して回収されているものと可燃ごみの中から分別回収されているものを合わせると、98%以上と推計されています。河川や海などにごみとして流出されているのは残りの2%未満のうちの一部です。この2%がどこから流出しているのかを解明するためのリサーチが進んでいます。

PETボトルは優れた容器

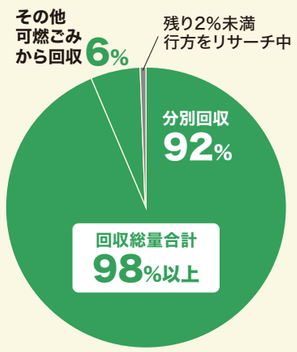
軽量で持ち運びしやすく、飲みかけでもキャップでしめることができるため、衛生的にいつでもどこでも水分補給ができます。リサイクルすれば資源として有効利用できる点からも極めて優れた容器です。

**日本国内のプラスチック製品
年間使用量992万tの内訳**



一般社団法人プラスチック循環利用協会および
PETボトルリサイクル推進協議会(2018)のデータから
当社試算

**日本国内における
PETボトルの回収の内訳**



複数の自治体によるごみの実態調査を基に、
日本コカ・コーラが推計

軽い！
同じ容量のガラスびんと比較して 約1/7～1/10の重量です

持ち運べる！
飲みかけでも、キャップでしめて衛生的に持ち運びができます

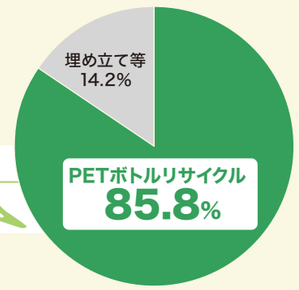
再資源化できる!
リサイクルすることで、
再び資源として
利用できます

PETボトルリサイクルの取り組み

高い水準を誇る日本のPETボトルリサイクル

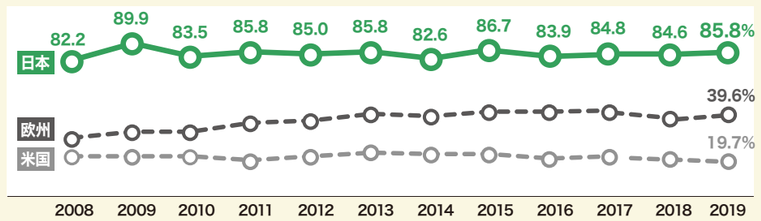
日本のPETボトルは、高い回収率に加え、販売量に対して85.8%をリサイクルしており（2019年）、欧米と比較しても高いリサイクル率を誇っています。また、その他のプラスチックのリサイクルと異なり、再資源化され、製品として使用される「マテリアルリサイクル」であることが特長です。

日本のPETボトルリサイクル率
（2019年・年間販売量593千t）



マテリアルリサイクル（ボトルtoボトル/繊維/シート等）
その他プラスチックと異なり再資源化できる
PETボトルは、製品としてリサイクルされます。

日米欧のペットボトルリサイクル率の推移



出典：ペットボトルリサイクル推進協議会HPより